

瑞浪層群宿洞層（岐阜県瑞浪市釜戸町）よりパレオパラドキシア科の全身骨格の発見

安藤佑介*・楓 達也**・北川博道***・合田隆久**・甲能直樹****

*瑞浪市化石博物館・**瑞浪市化石博物館気付・***埼玉県教育委員会・****国立科学博物館

Discovery of a whole skeleton of a paleoparadoxiid from the Shukunohora Formation of the Mizunami Group in Kamado-cho, Mizunami City, Gifu, Japan

Yusuke Ando*, Tatsuya Kaede**, Hiromichi Kitagawa***, Takahisa Goda** and Naoki Kohno****

*Mizunami Fossil Museum, 1-47, Yamanouchi, Akeyo-cho, Mizunami City 509-6132 (tyyu-destiny53@hotmail.co.jp); ** c/o Mizunami Fossil Museum; ***Saitama Prefectural Board of Education, 3-15-1, Takasago, Urawa-ku, Saitama City 330-9301; ****National Museum of Nature and Science, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba City 305-0005.

Key words: Miocene, Mizunami Group, Paleoparadoxiidae, Desmostylia

2022年6月5日、岐阜県瑞浪市釜戸町の土岐川河床に分布する中新統瑞浪層群宿洞層からパレオパラドキシア科（東柱目）の骨格化石が発見された（図1）。骨格は少なくとも腰椎、仙椎、右後肢が関節した状態で保存され、さらに一連の左肋骨遠位端の整然とした露出状況や頭部も非常に近い位置に保存されていたことから胸部～頭部の骨格も関節状態で保存されていることが予測され、さらに河床に露出しているため標本流出の恐れがあったことから、6月10日に緊急発掘を実施した（図2）。

現在、瑞浪市役所・教育委員会の関係課と研究者が連携し、あわせて市内外の方々から様々な支援を受けながら「瑞浪産パレオパラドキシア全身骨格化石復元プロジェクト」を実施し、瑞浪市化石博物館で標本の剖出を進めている。その結果、前肢を除くほぼ全身の骨格が関節した状態を残して保存されていること、パレオパラドキシア科に特徴的な円柱を束ねたような歯冠の低い白歯が上下顎に植立した状態で保存されていることが判明した（図3, 4）。今後、骨格の復元、系統分類学的な位置づけ、古生態の復元、埋没過程の解明、古環境の解明など多岐の分野にわたる研究を進めていく予定である。

謝辞

本標本は、瑞浪市釜戸町在住の有我高司氏、安江明高氏、渡邊敏博氏によって発見された。水野利之氏（瑞浪市釜戸町）には発掘や剖出作業の動画や画像データを提供していただいた。群馬県立自然史博物館の木村敏之博士、岡山理科大学生物地球学部の林 昭次博士及び編集委員の方には査読を通じて有益なコメントを頂いた。厚く御礼申し上げます。なお、発掘や剖出作業は岐阜県清流の国ぎふ推進補助金の補助を受けて実施している。



図1. 骨格発見時の様子（2022年6月5日撮影）。赤矢印は頭骨、青矢印は右後肢、緑矢印は左肋骨の遠位端を示す。



図2. 発掘の様子（2022年6月10日、水野利之氏提供）。

安藤佑介は本研究の企画・立案・本文執筆を担当、楓 達也は、発掘現場指揮、剖出作業を担当、北川博道は、産状図の作成を担当、合田隆久は、発掘現場指揮、剖出作業を担当、甲能直樹は、各部位の同定、発掘と剖出作業のアドバイスを担当。

（2022年12月16日受付，2022年12月23日受理）



図3. 2022年9月13日時点の標本の様子. 発掘時に骨格が含まれる岩石は3つに分割された. それぞれの岩石は記録に基づいた位置関係を示す (詳細な位置関係は図4を参照).

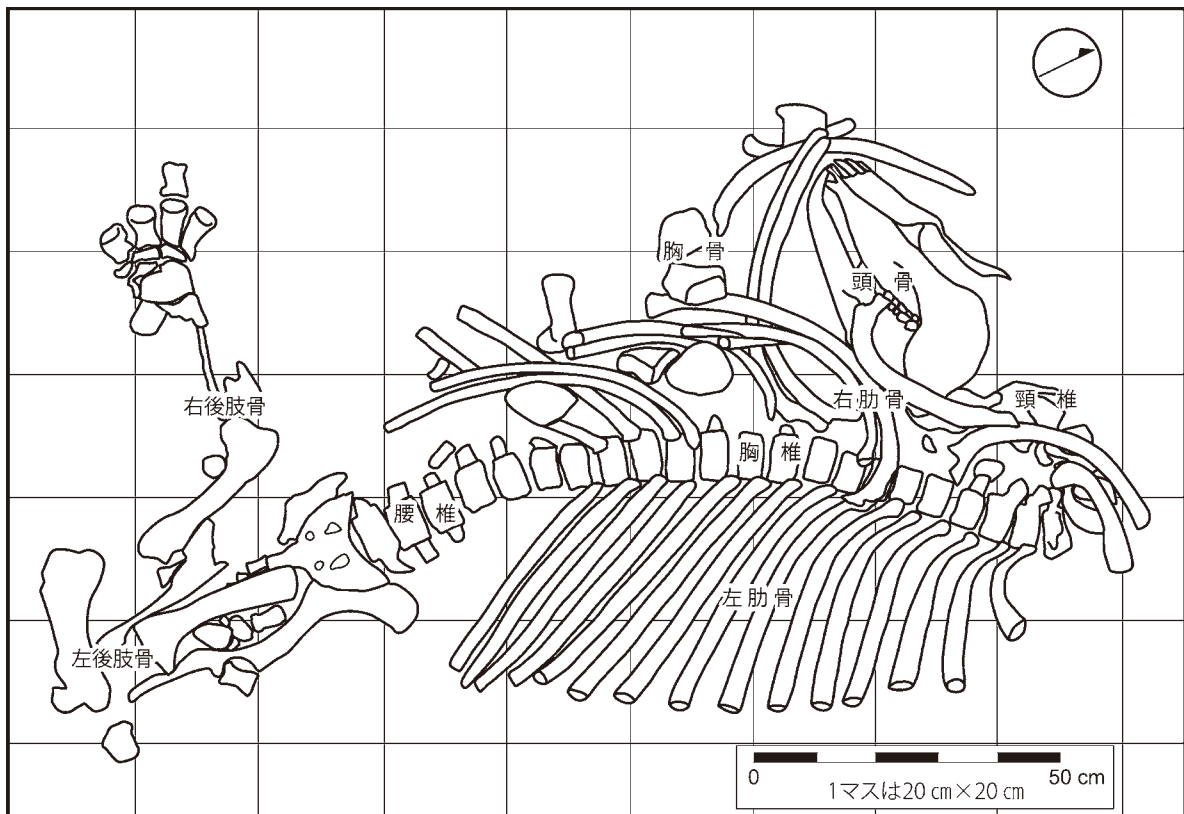


図4. 骨格の産状図 (2022年11月19日までの観察結果を基に作成).